

コロナ禍における島根県理学療法士会による県内養成校支援について
(2021.2.10)

一般社団法人 島根県理学療法士会

(はじめに)

2020年2月以降、新型コロナウィルス（COVID-19）の感染拡大に伴い、臨床実習をはじめとした理学療法士養成教育は多大なる影響を受けている。厚生労働省および文部科学省より2月28日に発出された文書には、感染状況に応じて臨床実習の学内での代替などが明記された。島根県内養成校（4校）においても、これら通達や政府および行政機関の方針、また各養成校の指針等によってその対策が取られた。このような中、島根県理学療法士会（以下、士会）として将来の理学療法を担う学生たちに何らかの支援ができるか検討を行い、養成校支援事業を行うこととした。

(経過：表1)

感染の収束が見通せず、状況の改善が図られない中、養成校に対してCOVID-19による臨床実習および学内教育への影響の調査、県内会員所属施設へのCOVID-19による臨床業務への影響及び臨床実習の実施状況についての調査を行った（5～6月）。養成校からは臨床実習の実施困難（学内での代替講義）、学内教育のリモート化など、県内会員所属施設からは感染対策のため臨床実習を中止せざるを得ないなどの意見が出され、例年通りの臨床教育を実施することは非常に難しい現状があった。加えて、5月に開催された日本理学療法教育学会COVID-19緊急シンポジウムにおいての報告でも全国的に当県同様の状況であることがわかった。この状況下で養成校よりどのような支援が必要かの調査を行い、表2の通りの意見をいただいた。その意見に基づき、士会として、①島根県士会理事による出張講義の実施、②島根県士会会員による事例報告集の作成、③島根県士会会員による学生への応援メッセージの作成の3つの支援を行うことを決定し実施した。

表1 COVID-19による影響の経過

2020年1月～	国内においてCOVID-19感染が確認、その後拡大
2020年2月	臨床実習の中止、延期が散見され出す
2020年2月28日	厚生労働省、文部科学省からの通達
2020年3月～4月	県内養成校が臨床実習の中止、延期を決定し始める（実習施設より実習受け入れの中止の連絡が相次ぐ） 学内教育については休校もしくはリモートでの開講となる
2020年5月	士会として養成校支援の実施を決定
2020年5月	日本理学療法教育学会 COVID-19緊急シンポジウム開催
2020年5月	県内養成校へのCOVID-19による影響および支援内容について調査
2020年6月	県内会員所属施設へのCOVID-19に関するアンケート調査の実施
2020年7月～	県内実習施設での臨床実習が少しずつ再開されるも、例年通りの実施は困難
2020年9月～	養成校支援の事業開始

表2 県内養成校よりの要望の内容

【臨床実習にかかわること】	
1)	理学療法士が行う実際の評価、治療を含む業務場面の動画の提供
2)	理学療法士による臨床推論について *問診を含めた初期評価から臨床推論、治療介入、効果判定（最終評価）に至る理学療法の流れについて
3)	事例集の作成（ペーパーペイメント） *可能な範囲で記録などの情報提供をお願いしたい
4)	理学療法士の1日のスケジュール *疾患や病期別、施設ごとの違いなども知れると良い
5)	緊急事態宣言が解除され、臨床実習の再開が可能になった場合、実習受け入れをお願いしたい
【学生支援について】	
1)	経験2~3年目の若手理学療法士に、学生に身につけてほしい、知っておいてほしいポイントを解説してほしい *やっておけばよいことや、知っておけばよいことなどを自身の経験として話してほしい
2)	今、このような状況下で学生として何をすべきかについて臨床の理学療法士からアドバイスをいただきたい
【就職活動】	
1)	就職までにしておくべきことについてアドバイスをお願いしたい
2)	就職に関する情報の提供および所属施設への働きかけの支援をお願いしたい

(実施内容)

1) 士会理事（3名）による出張講義の実施（図1）：90分×2コマ

対象：各校最終学年および次年度臨床実習等に参加予定の学生

内容：「臨床家の頭の中」を学生に「見せる、伝える」ことを目的とする

①1日の理学療法士の仕事の流れ、スケジュールなどについての解説

臨床現場でどのような流れで理学療法を進めていくのかの解説

情報収集の方法、手順の解説、問診の取り方についての解説

②理学療法評価についての講義

理学療法評価（特に検査測定）のポイントなどの解説

評価の中での病態分析・解釈の実際（臨床推論）の講義

③症例を通しての実践

理学療法評価（特に検査測定）のポイントなどの解説、実践

評価の中での病態分析・解釈の実際（臨床推論）の解説、実践

④質疑応答

グループに分かれて、学生の様々な疑問（臨床について、国家試験について、就職についてなど）にこたえる

⑤まとめ

1日のまとめ（総評）、学生・養成校への激励、島根県理学療法士会の紹介



図1 出張講義の様子

- * 実施前に各校に確認を取り、4校中3校より依頼を受け実施した。
- * 9月30日、10月6日、10月14日に実施。感染対策を徹底して実施した。
- * 講義終了後、受講した学生より感想文の提出あり。概ね好意的な感想であった。

2) 事例報告集の作成（図2）

本年5月に開催された日本理学療法教育学会COVID-19緊急シンポジウムにおいて、事例集を作成し、それを学内教育、臨床実習指導に生かすことができないかという議論がなされた。この議論を受け、士会としても事例集を作成し、実際の臨床現場での実習が経験できなかった学生はもちろん、今後実習に臨む学生の学びの支援をすることとした。

士会役員や認定理学療法士保持者を中心に県士会員より事例の提示をいただき、事例報告集としてまとめた。

・スケジュール

- ①ご依頼（受託いただけるかどうかのお願いの連絡） 10月30日～11月1日
- ②受託についての返答締め切り 11月7日
- ③執筆概要についてのご連絡 ご返信いただき次第返信、11月8日ごろまでに完了
- ④執筆期間 11月8日～12月5日：12月5日提出締め切り
- ⑤編集作業（文章チェックなど） 12月6日～12月24日
- ⑥完成、島根県内養成校への配布（執筆者にも配布） 12月25日

- * 士会会員30名に協力いただき、事例報告の作成、提供を受けた。
- * 患者・利用者のプライバシー保護に配慮し、説明と同意を得た上で執筆していただいた。
- * 30事例含め全80ページで完成し、12月下旬に養成校に配布した。



図2 事例報告集

3) 臨床の理学療法士から、学生に対してのアドバイス（図3）

メッセージ動画を撮影し、編集したもの（DVD）を各養成校にお送りする

- ①士会会長より学生への激励メッセージ
- ②士会理事（2名）より理学療法士の先輩としてメッセージ
「コミュニケーションや会話のコツ」についてのアドバイス
理学療法士、島根県士会の魅力を伝える
- ③中堅理学療法士（7名）から臨床についてのアドバイス
臨床でのコツ、時間の使い方、臨床上での困った点、学びなどについて
- ④若手理学療法士（7名）から学生時代についてのコメント
臨床実習や卒業研究、国家試験、学内生活などについて自らの経験について

* 士会会員17名にご協力いただき、9月上旬より随時撮影を行った。

* 17名からのメッセージは約2時間半を超えるものとなり、9月下旬に養成校にDVDを配布した。



図3 学生へのアドバイス動画

(実施に対しての養成校の反応：教員よりのコメント)

1) 出張講義について

- ・ 講義を通じて学生の不安（臨床実習の日数不足）は解消されました。
- ・ 臨床現場との接点が極端に減った学生にとって、現場で働く理学療法士の声は大変有意義なものでした。これを機に学習意欲が向上したように思います。
- ・ ご講義も良かったですが、その後、学生とのフリートークをしていただくことで、学生も不安が解消されたと思います。
- ・ 学生は非常に勉強になったと思います。学校では聞けない貴重な話を聞けたという声も聞きました。
- ・ 現場でご活躍されておられる先生方の生の声を学生が聞くことができ、臨床をイメージしやすく、将来像が見ることができ、改めて動機付けられたのではないかと感じております。
- ・ 実習に出られない焦りや不安はあったと思います。講義後の学生の意見でもその点は解消に繋がっているとコメントをあげています。最も学生が印象的に思ったことは、現職者の理学療法士は「やさしい」ということだと思います。実習に出られない中、各学生、現職の理学療法士に対するさまざまなもの像を浮かべていたと思います。今回の出張講義において現職の理学療法士が身近な存在になったと感じます。

2) 事例報告集について

- ・ 学生は、臨床での思考過程を垣間見ることができ、将来のための研究思考の礎となりました。症例検討のやり方を伝えるのに有効な資料とさせていただきます。
- ・ 今後も学内実習を継続していく必要があり、症例情報の収集に難渋していたところでしたので大変ありがとうございます。十分に活用させていただきます。
- ・ まだ十分な活用はできていませんが、臨床実習が無い場合に多くの症例について学ばせるための情報としてありがたく思っております。また、臨床実習以外の教育でも活用できるのではと考えております。しかしながら、臨床実習を通じて意図的に学ばせたい認知過程を分解し、より具体的な症例検討プロセスで作成いただけするとありがたいです。臨床実習で学ぶことを学内演習で完全に担保することは無理だと考えていますが、少しでも近づけることができればと本校も試行錯誤しております。
- ・ このような冊子を定期的に発行していただくことは臨床の状況を把握するためにも得難いものと思いました。
- ・ 今年は臨床実習が行えず学内実習を行いましたが、学校のみでは症例検討に限界を感じていました。事例報告集はこのような状況で学内実習において活用させていただき、より臨床実習に近いものとして展開できたと思います。
- ・ 情報の厳格化のなか、このような文章を提供してくださり感謝いたします。学内演習での教材として、参考にさせていただきました。
- ・ 4年生にも理解するには難しいものでしたが、実習ではレポートを作成しないので、症例の報告書を作成する参考にもなったと思います。この内容は4年生だけでなく他の学年の勉強にも利用できるものと感じました。

3) メッセージ動画について

- ・ 学生は、理学療法のことをより深く理解できたと思います。特に先輩のメッセージには説得力があつたようです。
- ・ 会長はじめ、さまざまな方からのメッセージに只々感謝しております。学生たちの不安解消にも繋がったと思います
- ・ 皆さんの経験談や臨床に関わるお話は学生たちにとって参考になったと思います。このビデオで最も伝わったのは、皆様が学生のことを気にかけてくださっているというメッセージだと思います。教育効果としては、学生達の情意領域に働きかけたものと思います。
- ・ 様々の職種がある中で万遍なくメッセージを取り上げていただき今後の職種選択の参考になったと考えます。
- ・ 時間の使い方や評価を行う際に気を付けていることなど、臨床で勤務されている理学療法士の考え方ですが人柄が見えて、学生は将来臨床で働くイメージが沸いたのではないかと思います。また、理学療法の世界にどのような先輩方がいて、勉強の機会があって、ということも分かり、安心を感じられたと思います。私たち、教員にとっても臨床の先生方のお話が聞けることはとても貴重な時間です。
- ・ 県士会からのメッセージ動画では、母校の卒業生の出演があり、勇気づけられたのではないかでしょうか。また、県士会からこのような激励を頂戴し、今後に向けて学生の理学療法士協会への帰属意識づけができたと感じております
- ・ メッセージ動画だからこそ聞けた素朴なコメントなどはこの動画の良いところだなと感じました。特に新人さんのコメントなどは、学生も同じ悩みや思いを感じているため、自分たちが感じている思いは特別でないと認識できたと思います。また、撮影場所の背景が職場であるため、さまざまな職場の場面が見れる点も良かったと思います。

(実施による効果と今後の展望)

新型コロナウィルスへの対応は現時点においては非常に未知数な部分が多い。そのため、各養成校からは「臨床実習」が将来的にどのような形になっていくのかといった不安が非常に強く存在している。新たな臨床実習の体系に移行する時期が近づいてきており、また、指導者養成に関しては当初の予定通りには進んでいない現状があるため、将来的な養成校の不安は尽きないものと思われる。加えて、今年度のように臨床実習を学生が経験できない状況では、就職活動にも大きな影響が出るのではないかといった不安もある。

士会によるアンケート調査では臨床実習の受け入れは施設ごとの指針によるところもあるが、比較的受け入れが再開できる状況にはあったように感じる。しかし、これも感染状況や政府、都道府県の方針に則る必要があるため、継続的に臨床実習が実施できるかは不明確な点がある。また就職については就職後に教育するなどの対応も可能と考える施設もあるが、中には採用自体がこのような状況下では難しいと回答するところもあった。

今回実施した養成校支援事業について、事前の養成校に対するアンケートに基づき支援を必要としている事項について対応を行った。事業自体には概ね高評価をいただき、士会としても学生の将来に繋がる活動ができたことはコロナ禍において良かったと感じている。しかしながら、収束の見通しはいまだ立たず、今後も継続的な支援を求める声も多くあった。なお、次年度以降も継続的な支援を行う予定にしている。

士会としての支援はあくまでも一部であり、今後の状況次第ではやはり制度、ルールの再検討などを含めた対応が必要になってくるのではないかと考えている。将来が見通せないということは若い世代の今後に多大なる影響があることが予測される。士会のレベルだけではなく、協会さらには政府、省庁を含めた対応をご検討いただけるよう働きかけが必要であろう。

文責　：　一般社団法人　島根県理学療法士会　副会長（養成校支援事業担当者）　小川昌